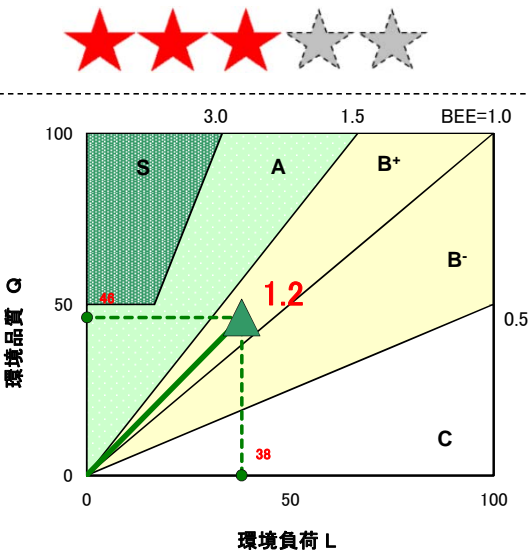


CASBEE® 熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観	
建物名称	荏原製作所精密・熊本工場(EFT棟)	階数	地上2F		
建設地	熊本県玉名郡南関町肥猪4000-1,40	構造	S造		
用途地域	用途地域指定なし	平均居住人員	300 人		
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年		
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2016年11月 予定	評価の実施日	2016年6月22日		
敷地面積	142,671 m ²	作成者			
建築面積	1,982 m ²	確認日	2016年6月22日		
延床面積	3,456 m ²	確認者			

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



環境品質 G

環境負荷 L

BEE = 1.2

■環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ライフサイクルCO₂排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)

排出率

81%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



重点事項	評価点
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	82.2
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	56.2
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	84.2
【重点事項4】 循環型社会の実現	85.5

■熊本県重点評価基準

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	★★★★★
80点以上100点未満	★★★★
60点以上80点未満	★★★
40点以上60点未満	★★
40点未満	★

評価点

78

※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE® 熊本《新築》 評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 ■ 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	荏原製作所精密・熊本工場(EFT棟)	階数	地上2F
建設地	熊本県玉名郡南関町肥猪4000-1,4	構造	S造
用途地域	用途地域指定なし	平均居住人員	300 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年11月 予定	評価の実施日	2016年6月22日
敷地面積	142,671 m ²	作成者	
建築面積	1,982 m ²	確認日	2016年6月22日
延床面積	3,456 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.2 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	81%
③上記+②以外の	81%
④上記+	81%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.8

Q1 室内環境 Q1のスコア = 2.5

音環境	2.6
温熱環境	2.1
光・視環境	2.6
空気質環境	3.2

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 2.9

機能性	2.7
耐用性・信頼性	3.1
対応性・更新性	3.1

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 2.9

生物環境	2.0
まちなみ・景観	4.0
地域性・アメニティ	2.5

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.4

LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.5

建物外皮の熱負荷	3.0
自然エネルギー	3.0
設備システム効率化	4.0
効率的運用	3.0

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.5

水資源	3.0
非再生材料の使用削減	3.7
汚染物質回避	3.3

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.2

地球温暖化への配慮	3.7
地域環境への配慮	3.0
周辺環境への配慮	3.0

3 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価 **評価点 = 78**

重点事項1: 温室効果ガス排出量削減の推進 **評価点 = 82.2**

重点事項2: 安全安心で暮らしやすい社会の実現 **評価点 = 56.2**

重点事項3: 県の地域資源の有効活用と保全 **評価点 = 84.2**

重点事項4: 循環型社会の実現 **評価点 = 85.5**

重点事項の評価(レーダーチャート)

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE® 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

- ・ 室内環境、敷地内環境、資源・マテリアルに配慮を行っている。
- ・ 建物の省エネルギー性能に配慮している。

Q1 室内環境

- ・ 外界からの熱的侵入を抑制に努めている。
- ・ F☆☆☆☆をほぼ全面的に採用し、基準の1.2倍以上の換気量を計画し、空気質環境に配慮。

Q2 サービス性能

- ・ 建物全体のコンセプトと機能が明確化された内装計画。
- ・ 防汚性の高い内装材の使用および外装の設計。
- ・ 内装材及び空調・給排水配管の材料は、耐用年数の長いものを採用。
- ・ 中央式空調換気設備を採用し、また災害時に空調・換気負荷容量を下げた運転が可能。
- ・ 電話、FAX、地上デジタルBS/CS/TV共聴設備、光ケーブルの通信網を設置
- ・ 建物の用途に合った空間のゆとりを持った設計

Q3 室外環境（敷地内）

- ・ 熊本県景観条例により、既存建物と周辺地域に調和した景観。

LR1 エネルギー

- ・ 高効率機器の採用により、建物の省エネルギー性能に配慮している。

LR2 資源・マテリアル

- ・ 過半に自動水栓の採用及び省水型便器の採用。
- ・ 躯体と仕上材、設備が容易に解体可能 ○A707の採用。
- ・ 現場発泡断熱材はノンフロンODP=0,GWP=50未満の発泡断熱材

LR3 敷地外環境

- ・ 隣等間隔の工夫、地表面被覆材に配慮し、敷地外への熱的負荷の低減をはかっている。
- ・ 駐車場・屋内に荷捌きスペースの確保をしている

その他

注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								2.8
Q1 室内環境								2.5
1 音環境		2.6	0.15					2.6
1.1 騒音		3.0	0.40					
1.2 遮音		3.0	0.40					
1 開口部遮音性能		3.0	0.60					
2 界壁遮音性能		3.0	0.40					
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								
1.3 吸音		1.0	0.20					
2 温熱環境		2.1	0.35					2.1
2.1 室温制御		3.2	0.50					
1 室温		3.0	0.38					
2 外皮性能	事務室窓U=2.4,SC=0.59,外壁U=1.364	4.0	0.25					
3 ゾーン別制御性		3.0	0.38					
2.2 湿度制御		1.0	0.20					
2.3 空調方式		1.0	0.30					
3 光・視環境		2.6	0.25					2.6
3.1 昼光利用		1.8	0.30					
1 昼光率		1.0	0.60					
2 方位別開口								
3 昼光利用設備		3.0	0.40					
3.2 グレア対策		3.0	0.30					
1 昼光制御		3.0	1.00					
3.3 照度		3.0	0.15					
3.4 照明制御		3.0	0.25					
4 空気質環境		3.2	0.25					3.2
4.1 発生源対策		4.0	0.50					
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆をほぼ全面的に採用	4.0	1.00					
2 アスベスト対策								
4.2 換気		3.3	0.30					
1 換気量	必要換気量の1.2倍以上	4.0	0.33					
2 自然換気性能		3.0	0.33					
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33					
4.3 運用管理		1.0	0.20					
1 CO ₂ の監視								
2 喫煙の制御		1.0	1.00					
Q2 サービス性能			0.30					2.9
1 機能性		2.7	0.40					2.7
1.1 機能性・使いやすさ		2.3	0.40					
1 広さ・収納性		1.0	0.33					
2 高度情報通信設備対応	事務室OAフロア、コンセント容量50VA/m ² 以上、光ケーブル引込あり	5.0	0.33					
3 バリアフリー計画		1.0	0.33					
1.2 心理性・快適性		2.5	0.30					
1 広さ感・景観		1.0	0.33					
2 リフレッシュスペース		2.6	0.33					
3 内装計画	建物全体のコンセプトと機能が明確化されている	4.0	0.33					
1.3 維持管理		3.5	0.30					
1 維持管理に配慮した設計	防汚性の高い内装材の使用および外装の設計	4.0	0.50					
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50					
3 衛生管理業務								
2 耐用性・信頼性		3.1	0.30					3.1
2.1 耐震・免震		3.0	0.50					
1 耐震性		3.0	0.80					
2 免震・制振性能		3.0	0.20					
2.2 部品・部材の耐用年数		3.3	0.30					
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20					
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20					
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	床:ビニルタイル,塩ビシート20年壁:クロスボード30年天井:石膏ボード30年	5.0	0.10					
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	ダクト外材亜鉛鉄板、屋外露出部ガルバリウムダクト	4.0	0.10					
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	主要な用途:給水管、排水管、通気管:B以上、Eは不使用	5.0	0.20					
6 主要設備機器の更新必要間隔		2.0	0.20					

2.4 信頼性			3.4	0.20	-	-	
1	空調・換気設備	中央式空調換気設備採用/災害時空調・換気負荷容量を下げ運転	4.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備		2.2	0.20	-	-	
3	電気設備		3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備	電話FAX地デジBS/CSTV共聴設備、光ケーブルの通信網を設置	5.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性			3.1	0.30	-	-	3.1
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高5m	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率:事務所=0.1、工場=0.15	4.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			2.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			2.8	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		2.2	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.38	-	-	2.9
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		熊本県景観条例により、既存建物と周辺地域に調和した景観	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.4
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.5
1 建物外皮の熱負荷抑制			3.0	0.04	-	-	3.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.12	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		BEI 非住宅 0.75 住宅(専有部) -	4.0	0.60	-	-	4.0
集合住宅以外の評価(3a.3b)		BEIm=0.75	4.0	1.00	-	-	
集合住宅の評価(3c)			-	-	-	-	
4 効率的運用			3.0	0.24	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制			-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.5
1 水資源保護			3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水		過半に自動水栓の採用及び省水型便器の採用	3.2	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.7	0.60	-	-	3.7
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		磁器質タイル、塩ビシート、岩綿吸音板、洋風大便器、小型電気温水器水栓部	5.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		躯体と仕上材、設備が容易に解体可能 O.A7.07の採用	5.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)		現場発泡断熱材はノンフロンODP=0,GWP=50未満の発泡断熱材	4.0	0.50	-	-	
3 冷媒			3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮		LCCO2=87%	3.7	0.33	-	-	3.7
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			-	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.33	-	-	
3 交通負荷抑制			3.0	0.33	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			3.0	0.33	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	1.00	-	-	
2 振動			-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			3.0	-	-	-	
3 日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70	-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	

建物名称 荏原製作所精密・熊本工場(EFT棟)

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2015年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		78
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)	スコア	重み 係数				
① 温室効果ガス排出量削減の推進				82.2	0.40	32.88
Q1-2.1.2	外皮性能	4.0	0.09			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.09			
Q1-3.2.1	昼光制御	3.0	0.09			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	3.0	0.03			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	4.0	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				56.2	0.20	11.24
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	1.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				84.2	0.20	16.84
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	4.0	0.29			
LR2-1.1	節水	3.2	0.43			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.29			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	0.0	0.00			
④ 循環型社会の実現				85.5	0.20	17.10
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.3	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.1	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	5.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数